

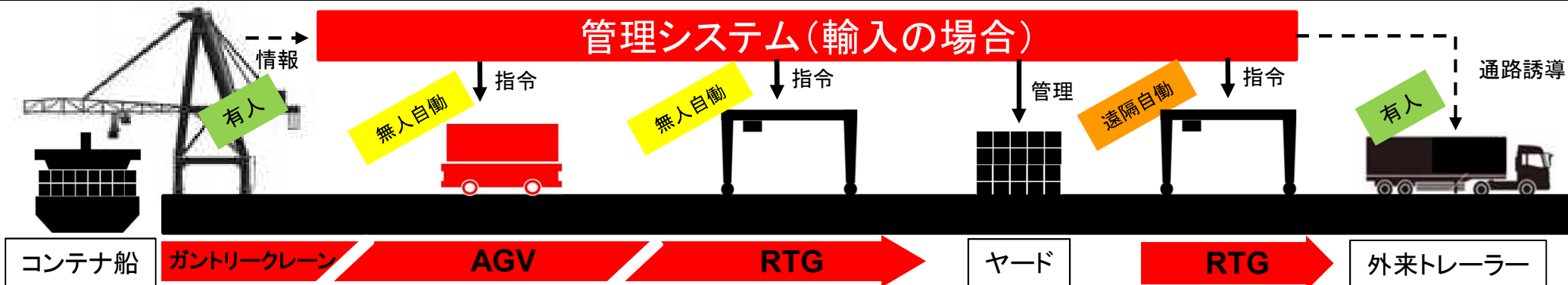
- 飛島ふ頭南側コンテナターミナルは飛島ふ頭の南に位置し、名古屋港最大の水深16mの岸壁2バース(750m)を有する。
- 主に北米、欧州向けの貨物を年間約50万TEUを扱う。
- コンテナターミナル内では世界初のRTG(遠隔操作式門型クレーン)や日本初のAGV(自動搬送台車)が導入され荷役の省力化、効率化を実施している。



飛島ふ頭南側コンテナターミナル



- 飛島ふ頭南側コンテナターミナルでは、ITを活用した荷役効率化向上の取組がなされている
- RTG、AGVによる自動化システムを導入し、荷役の省人化、効率化を実現



画像(一部): ©Can Stock Photo



自動搬送台車 (AGV)



遠隔自働ラバータイヤ式ガントリークレーン(遠隔自働RTG)

- 日本で初めて、AGVを導入
- RTGとの連携により、省力化、効率化を追求している

※AGV(Automated Guided Vehicle)  
無人で働くコンテナ搬送車のこと

- 世界で初めて、RTGの遠隔自働化を実現
- 管理棟内にある操作室から遠隔操作している

※RTG(Rubber Tired Gantry Crane)  
コンテナヤード内に段積みするコンテナの移動やシャーシへの積み降ろしを行う門型移動式クレーンのこと